

(様式)

第2回かわにし市民会議 議事メモ

| | |
|------------|-----------------------------|
| 班 | 5班「生きがいと地域交流の促進」 |
| コーディネーター | 伴 幸俊 |
| ナビゲーター | なし |
| 説明担当者(自治体) | 総合政策部 船木副部長 |
| 日時 | 2019年7月6日(土) 13時00分から16時00分 |
| 場所 | 川西市役所6階 議員協議会室 |
| その他 | 参加者数 17名 |

趣旨・概要

テーマ共通の現状及び課題の共有
各計画における「生きがい・地域交流の促進」
川西市の取り組んでいる事例
他市の先進事例

総括

班発表者総括

本日はテーマに関係する事例(市内で行われている地域活動、子ども食堂、コミュニティスクールなど)の情報提供があり、次回以降に議論するための、勉強を行った。

市内で行われている地域活動については、「開催場所が行きづらい」や「内容が不明確」などが原因で参加しにくいとの意見があり、また、これらの課題を主催者へ伝えるべきがないとの意見があった。自身は学生であり、もっと気軽に参加できるボランティアや地域活動の情報発信があれば参加したい人が参加できる状況になるのではないかと考えている。次回は今回出てきた問題点から深掘りできたらいいと思う。

コーディネーター総括

本日は事例紹介など、たくさんの情報提供を行った。

生きがいは個人の感性に係る部分が非常に大きいですが、この場で考えるのは、地域活動というものを生きがいを持ってやれるような、そういう社会地域づくりを考えていきたいと思う。この会の主役は皆さんなので、しっかり勉強していただいて、また次回色々お話ししたいと思う。

テーマが広いので、次回以降徐々に問題を絞って議論していきたい。(例：子育て支援活動、高齢者の活動支援、情報提供・発信の仕方など)

参)：市民参加者、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

(様式)

協議の流れ

1 第1回市民会議振り返り

前回は全体会が終わったあと、自己紹介をしていただいた。

第2回では、まず川西市のことを知ってもらいたい。5班のテーマは「生きがいと地域交流の促進」を今後川西市でどう進めていくかという論点になってくる。川西市の状況の説明と、他市の取組みをご紹介して勉強してもらいたい。

2 各計画における「生きがい・地域交流の促進」について（総合政策部船木副部長より説明）

総合計画

- ・「市民の生活の視点」を中心に構成。
- ・この総合計画における「生きがい」に関連するライフシーンは「育つ・学ぶ」と設定されているが、市民会議ではこれにとらわれる必要はない。地域交流は「つながり」というライフテーマで「関わる」に分類されている。

総合戦略

- ・「生きがい」「地域交流」に関するのは、基本目標の内の「良好な住環境の維持」や「地域のきずなをふかめる」といった部分に含まれており、非常に重要なテーマである。

その他個別の計画

- ・総合計画でいう「安全安心」は福祉系の計画、「生きがい」では子育てに関連する計画、その他、参画と協働の計画でも地域交流に関するものがある。
- ・「生きがい」「地域交流」に関しては大きなテーマであるため、様々な計画に位置付けられているものである。

コ) 皆さんには、市も地域に地域交流を任せているわけではなく、市全体の大きな計画や個別計画に位置付けてやっているんだということを知っていただきたい。

参) 子どもに関する計画があるのはわかったが、虐待防止法、不登校に対して市はどのように取り組んでいるか？オンブズマンは知っているのものでそれ以外でお願いしたい。

市) 不登校の児童が集まる場所として、適応指導教室を駅前のビル（パーティ）で行っている。また、学校で相談できるよう、スクールソーシャルワーカーが学校を訪問し相談にのる制度がある。

コ) コミュニティスクール（地域で学校運営に関わる取組み）はやっているか。

市) 今年から試験的にやっている。（久代幼稚園、清和台南小学校、多田中学校、東谷中学校）

コ) 豊田市では、小学校2つと中学校1つでひとつのコミュニティスクールをつくってい

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

るケースもある。

3 川西市の生きがい・地域交流の促進に関する取り組みの紹介 (総合政策部船木副部長より説明)

かわにし活動紹介一覧表

・209 ある団体の市内で様々な活動を行っている事例集を紹介。

- 参) 興味ある内容はどのように参加できるのかわからない人もいるのでは。
- 市) 活動したいのに活動できない人の共通項はどこで何をしているかわからない、また、わかっていきなり連絡して入っていけるのが怖いということ。しかし、どの団体も人手がたりていない。そのため、基本的には連絡場所がのっているものは、その連絡先に連絡して問題ない。
- 参) 市内でたくさんの地域活動をやっているが、どこでやっているかわからないものが多い。多胎児交流会も会場が駅から遠いに行く気にならない。誰もが参加しやすくすることで、参加者が増えていくと思う。
- 参) 自分自身、催しを開催しようと市に相談したところ、部会に参加し昔からの人を納得させないと開催できないと否定的であった。そのため個人的に開催したが、活動を周知することが難しい。本日配布された一覧表に載せることすらハードルが高い。
- 参) 市内の活動を知らない人が多く、与えられる情報が必要な人に届いていない。制度があっても活用する人がいないと無駄である。また、参加者からの意見や感想が主体者に届いてフィードバックされているのかが疑問。
- 参) 特別支援に興味があり、ボランティアに参加したいが予定があわない。できるかどうか不安で参加しにくいという思いもある。学生でも参加できる場を増やしてほしい。
- 参) 自分が小学生のころ、近所の家で宿題をやったりご飯を食べて家に帰っていた。子ども食堂はそういった昔の近所の人との関係をつくることだと思う。また、子ども関係の活動に参加しようと調べてもホームページの情報が古いことが多い。今の若い人はまずはスマホを使って調べることが多いため、ホームページはしっかり作る必要がある。

かわにしコミュニティ活動事例集

- ・市内 14 コミュニティでの活動事例集の紹介
- ・コミュニティは区域内の自治会や地域福祉委員会、自主防災会など各種団体で構成されている。コミュニティ単位での活動が盛んなのは、川西市の特徴である。
- ・コミュニティの財源の一部は市の補助金であるが、平成 27 年度から一括交付金として地域に交付している。各地域は実情に応じた取組みに活用することができる。
- ・今年度より、ふるさと納税の使用目的に地域を指定するふるさと支援金という制度も新設し、地域を支援している。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

参) 市内での地域活動の取組みを初めて知った。体育関係の活動は活発に地域で行われている。

参) 地元の人と新しい人がなじめない。私の地域では自治会に入っている人は少ない。川西の活動がこんなにあることは知らなかった。

参) コミュニティを超えた参加はできるのか。

市) 基本的にはコミュニティはその区域内での活動になると思うが、区域を超えた活動もあり得る。コミュニティ同士が手を握ることも考えられる。従来の枠組みを超えての活動は今後出てくると思う。

参) 犬も一緒に参加できるコミュニティがあるのか。

市) わからない。主催者に連絡を取るしかない。

参) 私の地域のコミュニティは犬を連れて参加できた。

子ども食堂

- ・川西公民館でNPO団体が子ども食堂、学習支援を行っている。市は優先利用や使用料の免除といった側面で支援している。
- ・その他、コミュニティや個人で子ども食堂を活動されている方もいる。

参) 共働きのため、子ども食堂があれば子育てはしやすくなると思った。

参) 私の自治会でも20年前から子ども食堂の話が出ているが、話が進んでいない。

赤ちゃん先生プロジェクト

- ・小中学生対象に、学校に赤ちゃんとその保護者に来ていただき、触れ合ってもらう活動である。小さな子どもと触れ合うことで命の大切さを学んでもらう。

キセラ川西

- ・キセラ川西せせらぎ公園は、設計の段階から運営のあり方までを市民が参加するワークショップで創り上げてきた。

4 他市の先進事例(総合政策部船木副部長より説明)

大阪府池田市 関関 COLORS

- ・大学生が地域活動をサポート
- ・イベント事業や子ども預かり事業など

東京都世田谷区 せたがやすまほ研究会

- ・スマホやタブレットの学びの場を、高齢者の地域活動、交流のきっかけにする。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

山口県宇部市 よりあい処西ケ丘

・「あったらいいな」を実現。住民の方が声を掛け合い、助け合う。

豊田市 (映像による事例紹介)

コミュニティスクール

豊田市では学校等、家庭、地域の様々な団体が連携して子どもたちの健全育成を積極的に支援するとともに、地域の活性化に寄与するための仕組みを作っている。モデル校として、中学校と交流館 (公民館) の合築について映像で紹介された。

子ども食堂

豊田市においても子ども食堂は複数活動している。主任児童委員や市民福祉大学修了生、社会福祉法人が主体となり、食材は若手農家で作る団体からの提供や地元スーパーが協力している。過去に不登校であった学生も子ども食堂で活動することで人と触れ合っている。

参) 豊田市のコミュニティスクールの事例紹介について、評価はどうか。今後増えるのか。

コ) 増える傾向にある。

5 その他参加者からの感想・意見

参) 自治会加入率に差が出るのか疑問である。

コ) 今後考えていきましょう。

参) 子供に対する取り組みだけでなく、高齢者の会議に対する地域活動も考えるべき。自分は自治会に入っているが、介護で何もできず、悪いなと思うのでやめたい。

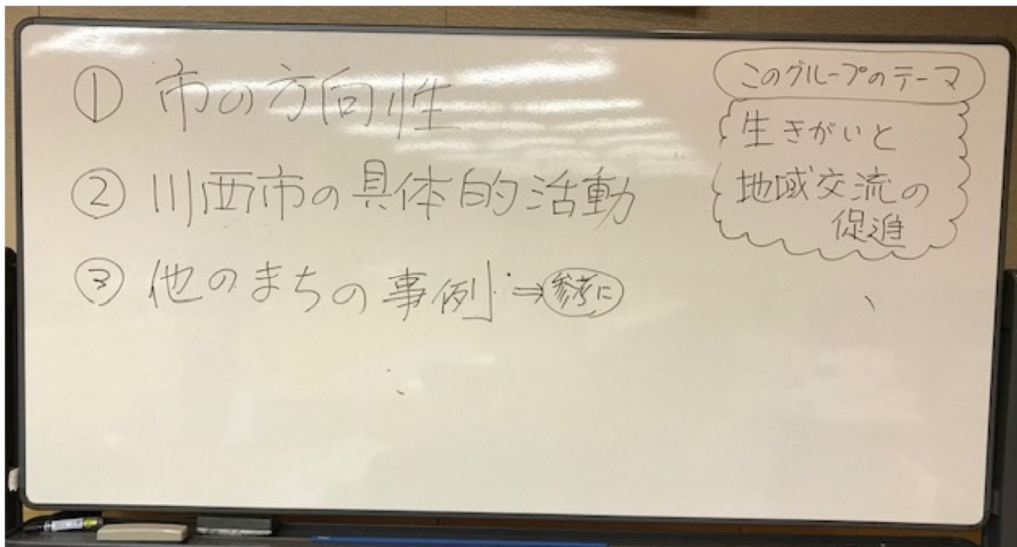
参) 最近、子どもに声をかけても無視をされることが多い。そのへんを考えたい。

参) 「生きがい」というテーマが仕事・私生活の関わる難しい課題だと思う。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

ホワイトボードの写真



参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者